

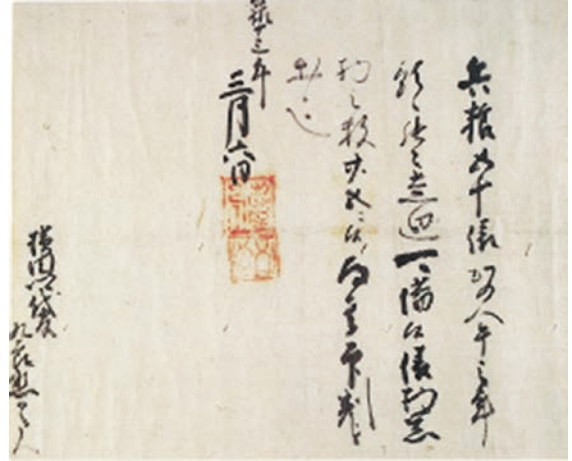
市指定

くずたけもんじよ
葛田家文書

- 所在地：横田
(市郷土博物館保管)
- 所有者：個人



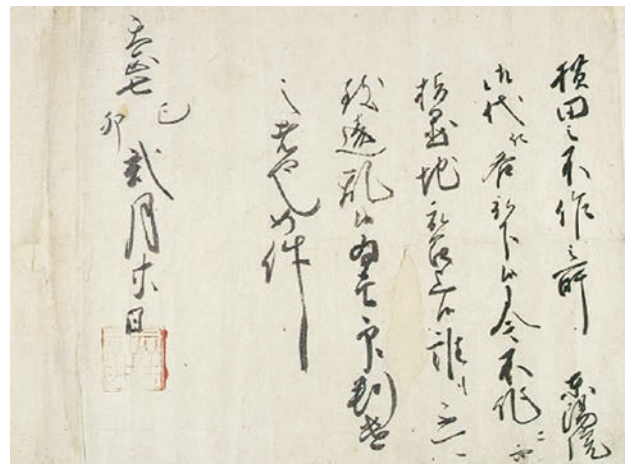
里見義弘印判状 天正2年12月26日
縦30cm、横34.1cm



里見(義堯)印判状 永禄13年3月6日
縦30cm、横38.2cm



里見義弘印判状 (天正3年) 10月26日
縦30.1cm、横37.9cm

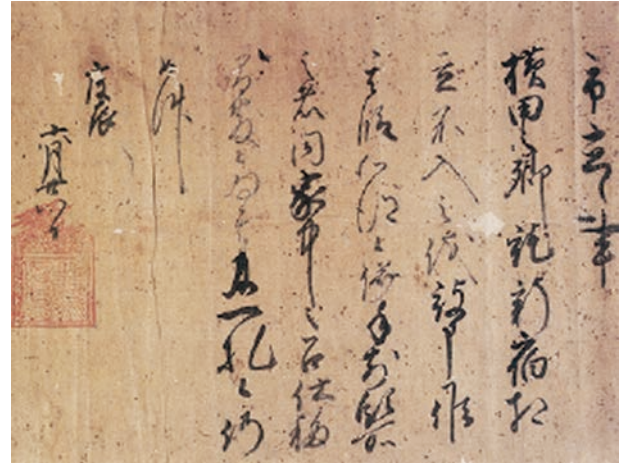


里見(梅王丸)印判状 天正7年2月20日
縦30.2cm、横39.6cm

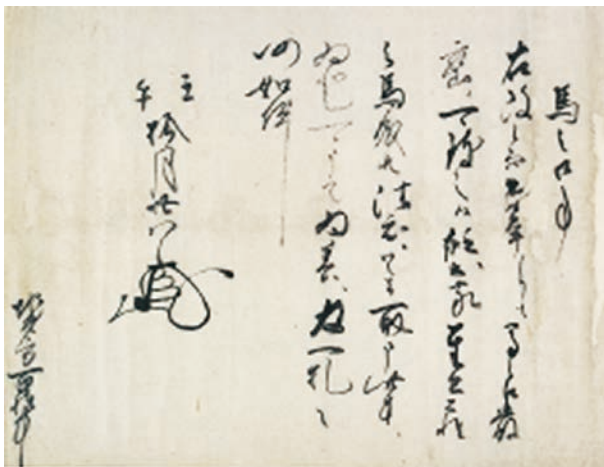
葛田家文書は、数少ない里見氏関係の文書であり、なかでも極めて少ない戦国期の原本史料です。この一群の古文書により、戦国時代末から天正18年(1590)の小田原北条氏滅亡、里見氏の上総領没収までの袖ヶ浦市を含めた西上総地方における里見氏の支配体系がわかりました。これは単に袖ヶ浦市の戦国時代史ではなく、房総の戦国時代史の記録としてとらえることができます。また、通常では史料として残りにくい領主権力に対抗する民衆の動向や、それに対応する支配者の姿勢を伝えるという点で、他に類を見ない貴重なものといえることができます。



里見義頼印判状（天正8年）卯月9日
縦30.0cm、横37.31cm



里見義頼印判状（天正8年）6月28日
縦30.0cm、横37.3cm



加藤信景判物（天正10年代）10月28日
縦30.0cm、横34.1cm

葛田家は「横田七人衆」と呼ばれる旧家の一つで、先祖は中世の在地領主であったと考えられています。